

ぎふ専研レポート

働き方・生き方こころの軸 ①

「水五訓に寄せて」

中小企業診断士 **大野 実雄**

1 水五訓とは…

① 水五訓は、豊臣秀吉の知恵袋と言われた黒田如水こと黒田官兵衛の作と言われることが多いが、著者は不明という説もある。

② 水五訓は、経営者（人間）にとって、非常に役立つ指針となる。「水」

というものを通して、人間としての生き方や働き方を教えてくれる言葉である。

2 水五訓

一、自ら活動して他を動かすは水なり。

二、障害に遭いて激し、その勢力を百倍にするは水なり。

三、常に己の進路を求めて止まざるは水なり。

四、自ら潔くして他の汚濁を洗い、しかも清濁併せ容るるは水なり。

五、洋々として大海を満たし、発しては雲となり雨と変じ、凍っては玲瓏たる氷雪と化す。しかもその性を失わざるは水なり。

3 水五訓に寄せて

◆人間の体（成人）の約60%は水が占めています。約46億年前に地球が誕

その胎内は羊水でいっぱいです。このことは、地球上で人類が創世されたその源泉は水であることと全く符合しています。

4 水は方円の器に従う

水は自然の流れに従いながら、自然を変えてゆく力を持っています。また「水は方円の器に従う」という言葉がありますが、その意味は、水は方円（正方形と円形）いずれの器であっても、正方形の時にはそれなりの形でおさまるし、円形であればこれまた丸くおさまるといった、その時の状況や条件に柔軟性を持って変幻自在に対応するといった意味合いです。

5 水五訓を座右の銘とする経営者は多い

人間が生きていく上で欠かせない水。海、川、湖に見ることの出来る

水。その水が、私たちに生きていく上で、あることを教えてくれています。指針を与えてくれています。それが「水五訓」であります。また、経営や人生において迷ったときの道標として、座右の銘とされている経営者は多い。

6 私たちは、何のために仕事をしているのか

① 「自己の成長」…仕事を通して、人としての成長を図る。仕事には壁や障害が必ずある。壁を乗り越えるから自分の成長につながる。

② 「社会への貢献」…仕事を通して、社会に役立つ人生にする。（人は死という遺伝子を持って生まれたからには役に立つ人生を送りたい）

③ 「人間関係の広がり」…仕事を通して、多くの人との出会いや繋がりが広がる。プライベートな人間関係は狭い（友人、家族、趣味、地域）。

おの じつ お
大野 実雄
中小企業診断士・販売士

●プロフィール
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。



生した時には、地球の温度は3万度あったと言われています。その後、何万年もかけて雨が降り、海が出来ました。宇宙の天体の中で、液体の水があるのは地球だけのようです。また、地球だけにしか生物（生きもの）が存在しないとされています。地球上に生命が誕生したのは35～40億年前で、私たち人間がその後誕生して今日まで、人間の歴史はたかだか200万年とされています。200万年といっても気が遠くなる話です。

このようなことを考えると、生物とは「生命を持った水」とも言えます。また、生きる上で水は決して切り離すことはできません。私たちがこの世に生を受ける前には、母親の胎内で十月十日育まれました。

④ 「生活の活性化」…報酬を得ることにより、生活が充実し、活性化できる。旅行ができる。外食もできる。欲しいモノを購入できる。

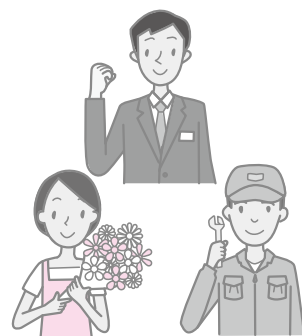
⑤ 「存在感の認知」…仕事を通して、相手を認め、自己を認めてもらう。顧客や同僚を認め、自分も認めてもらう。

⑥ 「可能性の追求」…仕事を通して、自分の可能性に挑戦・追求していく。自分の力を最大限に発揮できるのは仕事である。

⑦ 「生きがいの追求」…仕事を通して、働きがいや生きがいを向上させる。

◆「何のために仕事をしているのか」…とことん考えてみる。大切なことです。

◆次回から5回に亘って水五訓の各訓を連載します。



*本文とは異なる説もありますので、ご了承ください。
*イラストはイメージです。